

令和8年産「くるめの特別栽培米(夢つくし・元気つくし)」づくり基準

望まれる「福岡の米」づくりの推進

- 種子更新率100%
- 健全な土づくり ①堆きゅう肥・稲・麦わらの投入 ②土壌改良資材の投入 ③深耕
- 安心な米づくり ①減化学合成農薬栽培 ②減化学肥料栽培(完熟堆肥・有機入り肥料)
- おいしい米づくり ①生育に応じた施肥 ②適期収穫 ③適正な乾燥・調製
- 気象変動に左右されない米づくり(基本技術の励行)

土づくり・適期移植・水管理の徹底・中干しの徹底・適期落水

農薬の使用に当たっては、以下のことに気を付けてください。
①農薬の使用基準を守ってください。
②防除日誌を記載して防除記録を残してください。
③農薬を散布するときは、風の有無を確認し、散布機圧力を調整するなど周辺の作物に農薬が飛散しないよう十分注意してください。

主 な 作 業			
生育	特栽夢つくし	生育	特栽元気つくし
5月	播種(催芽粒150g/箱)	播種(催芽粒150g/箱)	播種(催芽粒150g/箱)
5月	土づくり、麦わらのすき込み	土づくり、麦わらのすき込み	土づくり、麦わらのすき込み
6月	育苗期	育苗期	育苗期
6月	基肥	基肥	基肥
6月	耕起、代かき 箱施薬剤 移植 浅水管理 除草剤散布 浅水管理	耕起、代かき 箱施薬剤、移植 浅水管理 除草剤散布	耕起、代かき 箱施薬剤、移植 浅水管理 除草剤散布
7月	有効分げつ期 中干し開始 (莖数18本/株より)	有効分げつ期 中干し開始 (莖数18本/株より)	有効分げつ期 中干し開始 (莖数18本/株より)
7月	無効分げつ期 穂肥 間断かん水 畦草刈り(出穂14日前まで)	無効分げつ期 穂肥 間断かん水 畦草刈り(出穂14日前まで)	無効分げつ期 穂肥 間断かん水 畦草刈り(出穂14日前まで)
8月	幼穂形成期 出穂 落水管理	幼穂形成期 出穂 落水管理	幼穂形成期 出穂 落水管理
8月	登熟期 間断かん水	登熟期 間断かん水	登熟期 間断かん水
9月	成熟期 落水(収穫7日前)	成熟期 落水(収穫7日前)	成熟期 落水(収穫7日前)
9月	収穫	収穫	収穫
10月	耕起、稲わらすき込み	耕起、稲わらすき込み	耕起、稲わらすき込み
年内			

品種特性表

※出穂期・成熟期は6月20日移植のデータ。その他は、品種特性表に基づく。

熟 期	品 種 名	出穂期 月・日	成熟期 月・日	稈 長 cm	穂 長 cm	穂 数 本/m ²	耐 倒 伏 性	耐 寒 性	外 観 品質	食 味	10a当り 米 量 kg/10a	耐 病 性 いもち 白葉枯
極早生	夢つくし	8-8	9-12	76	17.3	372	中	強	上の上	上の上	520	弱 やや弱
早 生	元気つくし	8-19	9-26	84	20.1	377	やや弱	強	上の上	上の上	568	弱 中

施肥基準

1.基本設計

(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基 肥	施用量	穂 肥	施用量
土力目標 1トン	ミネラルG 160kg 又は けい酸加里 40kg	新スーパーユーキくん1号 10-6-6 (有機51%)	夢つくし 40kg 元気つくし 50kg	スーパーユーキくん3号 10-3-8 (有機51%)	25kg

2.緩効性肥料による1回全量施肥

(10a当り施用量)

堆きゅう肥	土壌改良資材	基 肥	施用量
土力目標 1トン	ミネラルG 160kg 又は けい酸加里 40kg	有機エムコート355 13-5-5 (有機50%) 100日タイプ	夢つくし45kg 元気つくし55kg

施肥上の注意

堆肥や土壌改良資材の施用、深耕などの土づくりを行いましょう。

農薬使用基準

※野菜等、周辺作物に飛散すると被害を生じるほか、残留農薬により出荷できなくなるため、十分注意して防除を行う。

1.病害虫防除(箱施薬)

農 薬 名	化学合成農薬	使用量	使用時期	対 象 病 害 虫
ブーンゼケラ箱粒剤	3	1kg/10a (50~100g/箱)	は種時(覆土前)~移植当日	いもち病・白葉枯病・コブノメイガ・ウンカ類

2.雑草防除

【被害が出やすい状態】

時期	農 薬 名	化学合成 農薬	10a当り 使用量	使用時期 (移植後日数)	ノビエ	
初 中 期	オイカゼZ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～12	3.0葉期まで
		ジャンボ	2	400g	5～12	3.0葉期まで
	ブライオリティ	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～14	3.5葉期まで
		ジャンボ	2	250g	移植直後～14	3.5葉期まで
	ゼータプラス	1キロ粒剤	2	1kg	移植時～16	4.0葉期まで
		ジャンボ	2	200g	3～16	4.0葉期まで

※除草剤使用後は最低4日間は灌水状態を保ち散布後7日間は落水、かけ流しをしない。

3.本田病害虫防除

※農薬によるミツバチへの危害防止のため稲の開花時に農薬の使用は避ける。
※病害虫防除基準は箱施薬剤の使用を前提としているため、箱施薬剤は必ず規定量を使用すること。また、トビイロシカド病として既に記載している箱施薬剤が有効です。

へり防除

使用時期	農薬名	化学合成農薬	使用液量(10a)	希釈倍数	対象病害虫
出穂直前	オーケストラフロアブル	1	800ml	8倍	ウンカ類幼虫
	スタークル液剤10	1	800ml	8倍	ウンカ類 カメムシ類
	ダブルカットバリダフロアブル	1	800ml	8倍	いもち病 紋枯病
乳 熟 期	スタークル液剤10	1	800ml	8倍	ウンカ類 カメムシ類

※カメムシ対策として出穂14日前までに畦草刈りを実施する。

※ジャンボタニシ対策にはスクミノンが使用できます。

※ダブルカットバリダフロアブルに含まれるカスガマイシン、バリダマイシンは化学合成農薬のカウントから除外されますので1成分となります。

※本田防除は病害虫の発生状況に応じて実施する。

収穫・乾燥調整上の注意点

- 適期収穫: 籾水分 夢つくし 24~28% 元気つくし 22~28%
- 早期落水は絶対にしない
- 乾燥玄米は水分14~15%

記載農薬は、令和7年12月の登録内容に基づき記載しています。農薬の登録は、随時変更されていますので、農薬を使用する際には、再度、包装容器・袋に記載されている有効期限および登録内容を確認して下さい。

久留米市農業振興協議会

JAくるめ本店営業事業部
33-3671

東部営業センター
45-0345

西部営業センター
26-4111

久留米普及指導センター
47-5101

久留米市生産流通課
30-9164

JAくるめ ホームページ <http://www.ja-kurume.or.jp>

R.8.1作成